

<イベントレポート> ショートフィルム専門オンライン映画館
Brillia Short Shorts Theater Online
(ブリリアショートショートシアターオンライン) 7周年記念
解体予定のマンションを舞台にしたアートゴールデン街で
LiLiCoさん×現代アーティスト東芋さん×
TikTok再生5600万回の神谷佳美(渦を10年描いてる人)さんが
ART×SHORT FILMをテーマにトーク

国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル & アジア (SSFF & ASIA)と連動し、国内外のショートフィルムを年間を通じて紹介、配信しているオンライン映画館Brillia Short Shorts Theater Online (ブリリアショートショートシアターオンライン: BSSTO) は2025年2月に7周年を目前に、解体予定のマンションを舞台に展開されるアートプロジェクト「アートゴールデン街」とのコラボレーションとあわせて、「ART×SHORT FILM」をテーマにトークイベントを開催しました。

映画コメンテーターで、SSFF & ASIAのアンバサダーとしてショートフィルムの世界を知りつくすLiLiCoさんと、今回、アートゴールデン街に繰り広げる「ART×SHORT FILMギャラリー」のラインナップ、ドキュメンタリーフィルム「Veni-imo」に登場する東芋 (たばいも) さん、展示エリアの空間に「渦を沈む」をテーマに渦のアートを展開いただく神谷佳美 (かみたによしみ) (渦を10年描いてる人)さんにも登場いただき、映画の世界とアートの世界における、制作背景や表現方法、メッセージの伝え方、人々からのとらえられ方などを「映像」をキーワードに掘り下げてお話しいただきました。



登壇者の自己紹介からスタートしたトーク。SSFF & ASIAのアンバサダーを務めるLiLiCoさんは、自信が育ったスウェーデンで子どもの頃に参加したサマーキャンプでショートフィルムを作ったのがきっかけでショートフィルムの世界に魅了されるようになったと話します。東芋さんはアーティストの活動をスライド映像と共に紹介。映像と共に空間を作るビデオインスタレーションの作品は、鑑賞者も入りこんでその世界を体験してもらおうもの。そんな作品を1999年から発表していると、アートアニメーションや実験映像といったショートフィルムは学生の頃より見ていたので、影響を受けていると話します。

映像作品でありながら、空間の中で大きさなどを感じてもらおうことが作品の一部になるという東芋さんのアート。「ショートフィルムの世界から、こういったスクリーンを飛び越えた作品を作る人が今後出てくるのでは」。2年前にアートフィルムフェスティバルで審査員を務めて以来、東芋さんはショートフィルムの世界のこれからの展開を楽しみに感じていると目を輝かせました。

「渦を10年描いている人」というアーティスト名でTikTokやインスタグラムのショート動画からそのアート活動を発信している神谷佳美さんは、本イベントの会場アートゴールデン街の「ART×SHORT FILM」ギャラリーに「渦を沈む」をテーマに渦のアートを展開したことを紹介。

「頭の中で、心の中で、皮膚の下で、誰もがぐるぐると、巡る渦の中を今日も生きている」そんなメッセージと共に作品の制作風景が映像で紹介されました。

映画とアート、それぞれのかかわり方

「映画は総合芸術と言われますが、お二人は映画は普段見ますか？」映画コメンテーターとしてはドキドキすると言いがらのLiLiCoさんの質問に、東芋さんは、「配信サービスができて映画へアクセスしやすくなり、今では一番楽しいエンタテインメント」と答えます。影響を受けてきた映画としてあげたのは、寺山修司監督『田園に死す』、大林信彦監督『House』、三池崇史監督『オーディション』など、ちょっとドロツとした中にコミカルさや東芋さんが思う美しさがある作品が好きとのこと。洋画では、アレハンドロ・ホドロフスキー監督の『ホーリー・マウンテン』を見たときには衝撃だったことを話しました。その上で、「高校の時くらいから映画を観はじめ、衝撃を受けてきている。映画は一番最初に影響を与えられたもの(アート)かもしれません。」と、東芋さんにとってのアートと映画の距離感について教えてくださいました。

神谷さんは好きな映画として、『哀れなるものたち』や『ミッドサマー』、最近『ロッキー』も観たと話しました。

「映画を観て、自分がどうとらえたかを渦で表現する動画を発信しているので、色々な映画を観ることは普段の制作プロセスに組みこまれている」とする神谷さん。

「映画とアートは家族のようなすぐ近い存在。」とLiLiCoさんがコメントすると、「映画とアートの境界線というより、もっとこんな風にできたら良いと思うことはありませんか？」と東芋さんに投げかけました。東芋さんからは、「映画の鑑賞者に響くものと、アートのフィールドを楽しみにしている方の方に響くものとあるのではないかと考えている」と語り、アニメーション映画祭の審査員を務めたことがきっかけで、3人のアニメーション作家と出会い、コラボレーションを発表したこと、ショートフィルムのアニメーションとしても評価されているクリエイターではあったが、スクリーンではなく空間に映像を立ち上げられるということの面白さが、彼らの映像作品にはよりあっていて感じたことを話しました。

アートを映像で発信する理由

「私のアートの方法はいわゆるバズるエンタメより」とする神谷さん。

一般の人からコメントが何百も来るので、フィードバックを得やすく、視聴者と近い。皆に楽しんでもらいながら、自分のアートを発信していると説明します。

アート、エンタメ、映像の境界線が自分の中でもこれからどうなっていくかなと感じていると言います。

そして、TikTokやYouTubeなどショート動画を発信するようになったきっかけとして、「2年前にショート動画をアップし始めたころは誰も私のことを知らなかった。

9年描いていようが、何年描いていようが、ただの渦をただ見せるだけでは、誰も私の話を聞いてくれない。誰かに見つかる必要がある。」とショート動画をアップするようになった理由を教えてくださいました。

神谷さんから東芋さんへも質問が投げかけられました。「国際的なアート展で活躍するアーティストからは（神谷さんのような活動は）どう見えますか？」

東芋さんは、自身ではSNSは苦手意識もありやっていない、としながら、「展示に足を運んでくれる人しか見られない、海外も含めてそういう風に広がったほうが私にとっては活動しやすい」「エネルギー量は変わらないが、（神谷さんと）違う形での受け取り方があるのかな」と答えました。



イベントではSSFF & ASIA 2022年の映画祭で特別上映をしたミュージカル『Sleep Singing』、同じく2023年の映画祭で上映、抽象画のプロジェクト・マッピングと、クィアのパフォーマーをAIを使ってまとめたアニメーション『ヒステリシス』、2024年の映画祭アニメーション部門にノミネートしたexperimentalアニメーション『サイクルパス』の3本のショートフィルムが上映されました。

「ストーリー的にも技術的にも気になる3本でしたね」とLiLiCoさんがコメントを始めると、2本目の作品（『ヒステリシス』）が感覚的にすごく気になったという東芋さんは「映像の中をさまよう感じ。自分が一体何を見ているのかを自分自身が模索し始める。自分が知っているような世界を思い浮かべ始めたり。感触が迫ってくる感じで、観ている自分が戸惑っている、すごく知りたいと、直接的に自分の感触が引き出される作品で、映像作品ではあまりしたことのない体験だった」と熱く感想を述べました。

神谷さんは、「見ている後ろ側に山手線が走り、映像とマッチして面白かった。3作品目（『サイクルパス』）は最後に建物が崩れていく映像が出てきて、取り壊し予定のマンションを舞台に実施されているアートゴールデン街の場にあるなと思った。いつかここを通ったときに、皆この時の時間を思い出すのかあなと思った。」と語りました。

「渦を80年描いたおばあちゃんになる」それぞれのアート制作プロセスとこれから

トークはそれぞれのアーティストがどのように作品を作っていくのかの話に。

東芋さんは「大きなものを作るので、スペースからインスピレーションを得て作る。場所を下見し、何をすべきか考えます。たとえば、先ほどの話に合った、この会場の窓から山手線が走っているのが見えるなど、その環境が持っている力を、どれだけ引き出せるかを考えます。その空間が持っている力は作品がどれだけのもになるかにつながります。」と話し、その場に行くとかかり見えてくるものが多い」と話しました。

LiLiCoさんは更に、「そうしたイメージってすぐ出てくるものですか？」と自信のファッションコーディネーターのことを例に質問。

東芋さんは、「想像通りにはなかなかいかなくて、何をすべきか、やるべきことを積みあげていくことでものづくりが進んでいくタイプ」と説明し、

「映画監督は絵コンテを描いて最終的な形態をかなりしっかり決めて撮影するけど、私の場合は自分が一歩進んだことから選択肢を見ながら積み上げていく。頭の中にあることを形にするだけでは全く面白くないのはわかっているので、手を動かしてモノづくりを進めていく」と教えてくださいました。

神谷さんは「渦を80年描いたおばあちゃんになる、というのを一つ決めている」とし、「私に描けるものは私の人生の月日しかない。続けたときの人間性や意思、狂気がアートになりえるのではないかと、今自分の人生を通じて模索している」と笑顔で答え、LiLiCoさんは「何歳かわからないけどお祝いしますよ」と会場の笑いを誘いました。



現在のスタイルに至るまでについて話が及ぶと、大学でデザイン科で勉強をしていたという東芋さんは色々なことをしている中で発想力を鍛えられたと振り返り、「様々な技術を体験する中で、最後は特別得意なことは見つけられなかった。でも自分ができることを全部集めたら、私なりの個性がでてくるのではと考えた。」と、映像インスタレーションの形になるまでのことを話しました。

神谷さんは、「私は最初に渦を描いた時に、続けたほうが良い、ショート動画をあげたほうが良い、と色々な方が色々な思惑の元に提案してもらったものに対応してきた結果」と説明。

「今後も、自分は渦を描き続け、誰かそれを必要としてくれる人によって変化していくのかもしれない」と語りました。

東芋さんは2006年よりダンスとのコラボレーションも展開してきました。イスラエルの振付家オハッド・ナハリンとの出会いが舞台作品に目をむかせるきっかけとなったと話します。

「映画はもちろん、若い頃より影響を受けたものでもありますが、舞台や生の場所にはすごく興味がある」と、現存する旅館でほしよりさんの小説をもとに作られたインスタレーションの展示について紹介。昨年は寺田倉庫でアニメーションショートフィルムの作家3人とコラボレーションしたとスライドを見せてくれたながら、「600平米もの敷地にスクリーンを建て、鑑賞者の方に映像と音、光がシンクロする中に入り込んでもらいインスタレーションで、25年アニメーションを作ってきた中でも最大規模のもの」と説明しながら、「25年やってきた中でも今まで気づけなかったことを、他の作家から気付かされた。今はその気づきをどう今後の作品に活かしていけるかを考えている」と話し、会場は今後の活動についても期待を膨らませました。

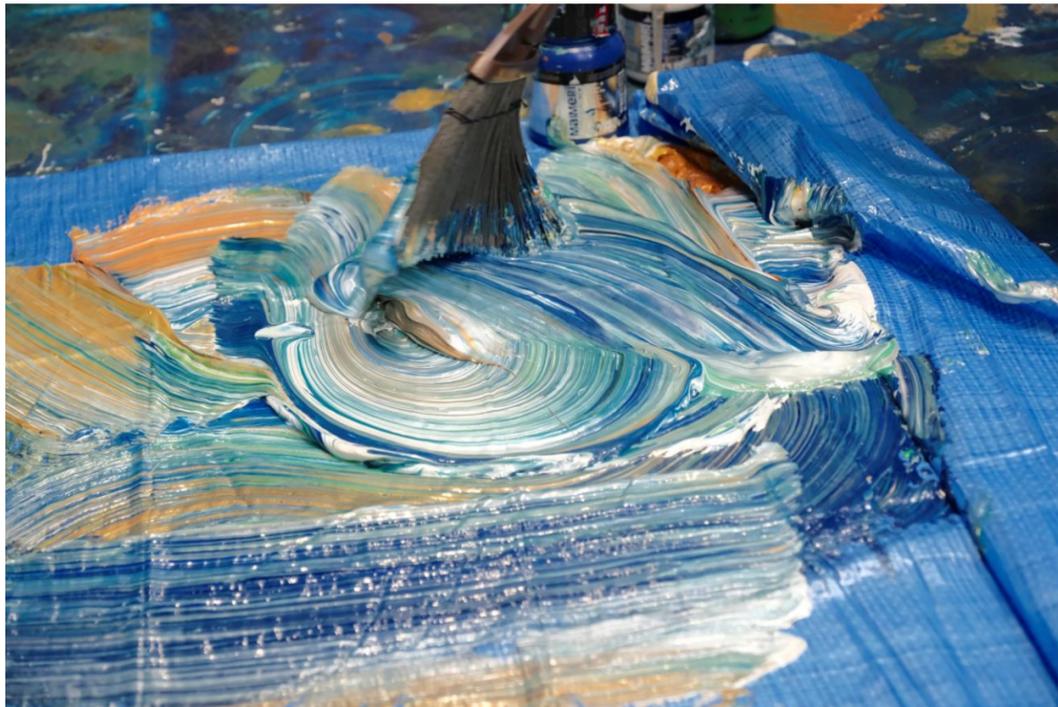
神谷さんは影響を受けたアーティストとして、ガタロというおじいさんの名前をあげました。30年以上トイレや団地の掃除を行う彼は、毎日掃除で使用した雑巾を自分で絞ってそれを1枚の紙にスクッチします。それが一面壁に貼られたアートに、「老いと一人の人生をかけたものに感動し、自分の背中をおしてもらった」と語りました。

イベントの最後は2FのART×SHORT FILMギャラリーに移動し、神谷さんがライブペインティングを披露しました。

トークイベントの興奮冷めやらぬ中、一心に渦を描く神谷さんの姿に来場者も見とれるばかりのひと時でした。

アートゴールデン街での「ART×SHORT FILMギャラリー」は2025年1月28日(火)までの期間限定で展開中。ショートフィルムはギャラリーでの上映のほか、ブリリアショートショートシアターオンラインでも2月より配信予定。

<ライブペインティングの様子>



<実施概要>

Brillia Short Shorts Theater Online (ブリリアショートショートシアターオンライン) 7周年記念
LiLiCoさん×東芋さん×神谷佳美(渦を10年描いてる人)さんトークイベント @アートゴールデン街

日時：2025年1月15日(水) 17:30開場、18:00開演、19:30終了予定

会場：〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西二丁目5-1 セゾン代官山 1F

<登壇ゲスト>

LiLiCo

1970年スウェーデン・ストックホルム生まれ。18歳で来日、1989年から芸能活動スタート。
TBS「王様のブランチ」に映画コメンテーターとして出演、J-WAVE「ALL GOOD FRIDAY」など、出演番組も多数。
アニメの声優やナレーション、俳優などマルチに活躍する映画コメンテーター。
2011年ネイルクイーン協会功労賞受賞、2013年ベストジューズ協議会選出部門受賞などファッションにも意欲的に
取り組み、ジュエリーのデザイン、プロデュースも手掛ける。

東芋 (たばいも)

手描きドローイングと日本の伝統的な木版画の色彩を思わせる
アニメーションを用いたインスタレーション作品で知られ、現代日本社会に潜む問題をシニカルに表現する作品を発表してきた。2011年、第54回ヴェネチア・ビエンナーレ
国際美術展に日本代表として参加。
バットシェバ・ダンス・カンパニーのオハッド・ナハリンとのコラボレーションを皮切りに、2006年より様々な舞台作品に取り組んでいる。2016年、映像芝居「錆からでた美」
(東京芸術劇場シアターイースト初演)を舞踏家の森下真樹と共同演出。2020年に米国4都市を巡回した。2022年、現代サーカスアーティストのヨルグ・ミュラーと
制作した「もつれる水滴」を公演。日本4都市、フランス4都市を巡るツアーが行われた。2023年にはコペンハーゲンのKunstforeningen GI Strandにて、
大型インスタレーション5点とドローイング、油絵を展示した大規模個展も開催。
2024年10月にはギャラリー小柳での6年ぶりの個展を開催し、新作の小型映像インスタレーション作品を7点発表。現在は兵庫県立美術館の企画展
「30年目のわたしたち」にて、新作大型インスタレーション作品を2作品発表。同館のコレクション展では、2007年の作品「dolefullhouse」も展示中。
Website: <https://tabaimo.jpn.org/>

神谷佳美(渦を10年描いてる人)

アーティスト
様々なテーマを【渦】で表現し続けて10年。
TikTokやYouTubeで発表した『渦で描いてみた』動画が世界中で注目を集め、総再生回数は5600万回を突破。
2023年には第8回『インフルエンサー・アワード・ジャパン』ENTERTAINMENT部門で最優秀賞を受賞。
https://www.tiktok.com/@art_no_uzu

<当日上映作品>



『Sleep Singing』監督 : Bradley Porter
イギリス・日本/2022/15:40/ミュージカル

ダンサーに憧れているミッキーは、努力して勤勉な生活を送っているにもかかわらず、踊れない日常に不満を覚えていた。そんな中、街で見かけたミロが自身のために踊る姿に惹かれ、ミッキーも自分のために踊れるようになりたいと思うようになる。そして、たったひとつの朗報が、すべてを変えていく。トム・ブロムリー（ロス・カンペシーノス！）のオリジナル音楽と歌詞で彩られる物語。

【Bradley Porterプロフィール】

イギリス・ロンドンを拠点に活動する脚本家・監督であり、イギリスの数多くの監督やプロデューサーのアシスタントを務め、映画製作において幅広い経験を持っている。現在、自身の初長編映画を製作中である。BFIフィルムアカデミーでは、16歳から19歳の若者の初めての短編映画制作を指導し、またフリーランスの開発コンサルタントとしても活躍している。2020年にSSFF & ASIAとアミューズが開催するミュージカル企画コンペティションに参加し、グランプリを獲得。本作はその企画の映像化である。

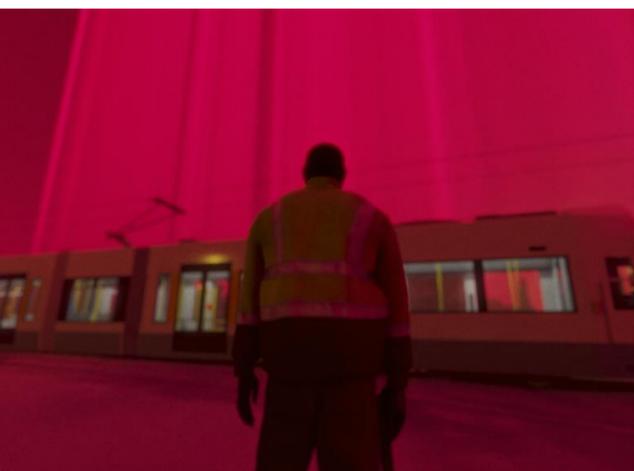


『ヒステリシス/』HYSTERESIS』 監督 : Robert Seidel
ドイツ/2021/5:05/エクスペリメンタル

「HYSTERESIS」はロバート・サイデルによる抽象画のプロジェクト・マッピングと、クイアのパフォーマーのツキが見せる力強い振付によって、変幻自在な構成を密接に作り上げている。双方の表現の間に生まれるずれをまとめるために機械学習を用いることで、本作品では意図的にAIの考えを破壊し、この歴史的な瞬間にヒステリーとヒステリシスの視覚的な言語を持つ熱狂的かつ繊細なまばゆさを露わにしている。

【Robert Seidelプロフィール】

科学技術を用いた表現や、撮影技法を通して、抽象的な美の境界線を探求している。プロジェクション・マッピング、インスタレーション、実験映画は、リール宮殿美術館、カールスルーエ・アート・アンド・メディア・テクノロジー・センター（ZKM）、台北当代美術館（MOCA Taipei）など、多くの国際映画祭や美術館で上映や展示が行われている。



『サイクルパス/Cyclepaths』 監督 : Anton Cla
ベルギー/2023/12:53/アニメーション、エクスペリメンタル

老婆が買い物袋を持っている。
銃を持った子供がスクーターに乗っている。
鳥が飛んでいる。
街が崩壊していく。
パーティーは盛り上がる。

【Anton Claプロフィール】

ベルギーを拠点とするマルチメディア・アーティストであり講師も務める。2018年より、コンピュータ・アニメーションを使用した受注制作のアニメーションを専門としている。2022年、ベルギーのアントワープにあるKASK School of Artsでアニメーションの修士号を取得する一方、LUCA School of ArtsとHowest Universityで3Dコンピュータグラフィックスを教えている

<ART×SHORT FILMギャラリー@アートゴールデン街>



国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバル & アジア (SSFF & ASIA) を企画・運営する株式会社ビジュアルボイスは、年間を通じて世界のショートフィルムを配信しているオンライン映画館「Brillia SHORTSHORTS THEATER ONLINE (BSSTO)」と共に、老朽化のため解体が予定されている東京のカルチャーシーンの中心地「渋谷」恵比寿「代官山」の中間点に位置する10階建の賃貸マンション、セゾン代官山を舞台に展開されるアートイベント「アートゴールデン街 by NoxGallery x Superchief x Brillia」に参加。

1月9日（木）～28日（火）の期間限定で「ART×SHORT FILMギャラリー」を展開しています。

解体予定のマンションの1階・2階をデジタルアート・ギャラリー、3階以上の住居区画等をアーティストによる表現の場として活用し、最先端のアート、音楽、テクノロジーが発信される本プロジェクトでは、2階部分に「ART × SHORT FILM ギャラリー」をオープンし、これまでにSSFF & ASIAにノミネートした作品の中でも、アーティスティックな世界観を映像で表現する作品や、森村泰昌（もりむらやま）さん、東芋（たばいも）さんといった世界的にも名前が知られるアーティストの映像作品のほか、TikTokやYouTubeで発表した『渦で描いてみた』動画が世界中で注目を集める神谷佳美（渦を10年描いてる人）（かみたによしみ）さんといった多様で個性的な世界観を表現するアーティスト総勢12名による映像が集結します。

壁面に取り付けられた10機以上のモニターで各作品（ショートフィルム）が視聴できるほか、作品群をつなぐかのように部屋全体に描かれる神谷さんによる渦のアートと共に「ART × SHORT FILM」の世界に浸っていただきます。

ART×SHORT FILMギャラリー 上映作品 <https://www.shortshorts.org/content/home/15945/>



<アートゴールデン街>

解体予定のマンション「セゾン代官山」をアーティスト支援に活用し、50部屋のアーティストレジデンスやNFTギャラリーなどのイベントを開催。本イベントは、本物件の1階・2階がNFTギャラリー（デジタルアート）、3階以上の住居区画や廊下部分がアーティストによる表現の場となる、マンション一棟全体を活用したアートイベントです。

部屋ごとに異なるアーティストがペイントやデジタルサイネージなどさまざまな技法を用いた装飾を行い、50以上の部屋それぞれが異なる魅力の詰まったアート空間となります。また、一部の区画についてはアーティストレジデンスとしてアーティストが専用で使える制作スタジオとして提供することを予定しています。

イベント名の「アートゴールデン街」は海外において芸術家、作家、映画監督などクリエイティブな個人が集まる文化の中心地として知られる「新宿ゴールデン街」から名付けられています。

本イベントは、マンション全体を活用した大規模な芸術活動の発信を行うことで、最先端のアート、音楽、テクノロジーを東京から世界へ発信することを目的としています。

<https://www.artgoldengai.com/>



<ブリリア ショートショートシアター オンライン>



国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア」が厳選したショートフィルムを毎週水曜日に配信しているオンラインシアター。2008年2月～2017年12月まで横浜みなとみらいで運営したショートフィルム専門映画館「ブリリア ショートショート シアター」のブランドを引き継ぎ、2018年2月にスタートしました。

簡単な会員登録をいただければ、常時12作品ほどを無料で視聴いただけます。

短い時間ではありますが、人間の優しさや強さ、豊かな人生のヒントを教えてくれる、素晴らしい映画を皆さんの日常にお届けするオンラインシアターをめざし、映画を暮らしに取り込むヒントになる記事も掲載しています。

<https://sst-online.jp/>

<Brilliaについて>



「Brillia」は、東京建物が展開するマンションブランドです。

その時代にふさわしい「洗練」と「安心」を追い求め、住まいと暮らしを通じて、お客様一人ひとりに「自分らしい豊かさ」＝「NEW LUXURY」を提供しています。

建物の企画・製造・販売だけでなく、管理・仲介（売買・賃貸）など、東京建物グループの多彩なサービスにより、みなさまの価値あるライフスタイルの実現をお手伝いします。

Brillia公式サイト：<https://brillia.com/>

Brillia Art公式サイト：<https://www.brillia-art.com/>

<株式会社ビジュアルボイス>



米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア」と連動して2006年に誕生し、ショートフィルム専門のブティック型映画館の運営をはじめ、ショートフィルムを軸としたさまざまな事業を行ってきました。マルチメディア化が進んだ現代において、映像の持つ力はますます大きくなっています。「あなたの声を映像に載せて」というコンセプトには、映像・映画の力を様々な人や組織が活用しメッセージを伝えられる世の中の実現を目指す私たちの想いが込められています。私たちはこれからも、映像で「新しいなにか」に挑戦しようとしている皆様と一緒に、ビジネスを創造してまいります。

<https://v-voice.jp>

<メディアからのお問い合わせ先>

株式会社ビジュアルボイス/ブリリアショートショートシアターオンライン 担当：田中 TEL：03-5474-8201 press@shortshorts.org

画像のダウンロード

https://drive.google.com/drive/folders/1t3mlmadZLYa_bd5QRDIAssUKHVsfOSzv?usp=sharing